

伊座利小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 個に応じた分かる授業の創造と実践
- 基礎・基本の徹底
- 主体的・対話的に学ぶ問題解決的な学習の充実

藤崎 知幸

学力向上推進員

竹岡 玲

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○個人差はあるものの学習に意欲的に粘り強く取り組み、ある程度定着が見られる。 ●語彙力が乏しく、定着が不十分のため、文章読解や表現に影響している。	・書くこと・話すこと・聞くことを大切に、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・語彙数を増やし、正しい言葉で文章を書いたり読んだりすることができる。	・学習を計画的に行い、ミニテスト等で習熟状況を確認する。 ・日記指導やノート指導などを充実させ、書く機会を増やす。 ・様々な機会を捉え言語活動を取り入れ、書いたり話したりする表現活動の充実を図る。 ・学校の読書環境を生かし、本の紹介をするなど、読書に興味を持たせたり、正しく文を読むことができるようにしたりして、語彙力・読解力を伸ばす。	・事実と自分の思いを結び付けて書く指導を徹底し、自分の考えを説明する力を育てる。 ・口頭でのアウトプットを重視し、話した内容をもとに記述へつなげ、自分の考えを整理して表現する力を育てる。	・個に応じた指導により、基礎的な知識・技能については定着してきている。 ・語彙数の不足や読解力の弱さが見られ、特に説明文では内容理解が不十分な児童もいたことから、語彙習得と読解力の伸びに個人差が生じた。 ・作文を書いたり、問題に答えたりする際に、主述のねじれが見られた。 ・書きたい内容のイメージはあっても、書き始めて手が止まる児童がいた。	・1冊の本を精読するよう指導し、意味調べや語彙リスト作りなどの活動を取り入れ、語彙の習得につなげる。 ・読書が苦手な児童に対し、読み聞かせや短文からの段階的な指導を行い、内容を理解する習慣を育てる。 ・音読や短文づくりを通して、正しい文構造を意識して書く力を身に付けられるようにする。 ・「はじめ・中・終わり」の構成で整理するなど、書く前の見直しをもてるよう支援する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の意見を聞き、疑問点を質問したり、感想を伝えたりするなど、自分の意見を伝えようとしている。 ●自分の考えを筋道立てて説明することができず、単語での受け答えが多い。算数や理科で、考え方や理由を「図や式・言葉」で表現することができない。	・児童一人一人が考えを広げ、根拠や理由を明らかにし、自分自身の考えを進んで話したり書いたりすることができる。 ・全校での話し合い活動などで話し手の顔を見て話が聞け、話の内容に反応し、進んで自分の感想や気づきを発表できる。	・国語科と関連させながら、問題解決的な学習を展開し、根拠を明らかにして自分の考えを説明するなどの指導をする。 ・定期的な話し合い活動をし、その中で自己決定や集団決定の場を設け、それを表現する機会をつくる。 ・思考ツールを利用し、意見や考えを比較・分類することで、自分の考えを深めたり広げたりする。	・読書では、登場人物やあらすじを児童と確認しながら、「どんな話だったか」などを言葉にさせ、内容を整理して理解し、自分の考えや感想を言語化する力を育てる。 ・週末読書で教師が選んだ本を読むことで、読書の幅を広げ、多様な語彙や表現に触れられるようにする。	・児童一人ひとりが考えを広げ、理由をもって自分の考えを話したり書いたりする姿が育ってきた。 ・話し合い活動では、話し手を見て聞き、前の人の意見をうけて発言するなど、主体的に活動する姿が見られた。しかし、意見を比較したり自分の考えを深めたりする場面では、気づくことに課題が残った。 ・説明や会話で主語が抜けたり要点が曖昧になったりする場面があった。	・話し合い活動では、他者の意見に対して疑問をもったり、自分の意見と比較して違いに気づいたりする力を伸ばすため、友達の意見の良さや課題点を考え、自分の考えと照らし合わせる場面を増やす。 ・伝えたいことを明確にしてから話す・書く指導を積み重ね、言いたいことを正確に表現できるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目な態度で学習に取り組む、学習に意欲的に取り組む児童が多い。 ●与えられた課題に対して真面目に取り組むが、自らめあてをもって学習に取り組む場面が少ない。	・自ら課題を見つけ、学校での学習や家庭学習、苦手な課題についても主体的に取り組むことができる。	・自主学習の進め方について具体的に児童に提示し、主体的にめあてをもって自主学習に取り組めるように指導する。 ・児童同士で、自主学習ノートを見る機会を設定し、主体的に取り組むことができるようにする。 ・授業ではICTを活用して児童の興味関心を引くような導入を提示し、写真や動画で記録し職員で共有する。 ・児童が自らめあてを見つけ出し、学習に取り組むことができるような授業展開を心掛ける。 ・正しい姿勢や鉛筆の持ち方で学習に取り組めるように指導する。	・自主勉強プロジェクトとして、全員が同じテーマで自主勉強を行ったり、リレー形式で回したりする。そうすることで、まとめ方の多様さや自分と異なる考え方や表現方法に関心を持たせ、学習への意欲や主体性を高める。	・児童はこれまでより自ら課題を見つけ、学習に取り組む姿が見られた。 ・自主学習については、思うように進められず、進め方が定着しなかった。また、苦手な課題に自主的に取り組む姿は十分には育っていなかった。 ・一方で、帰宅後の習い事などもあり、自主学習の見直しをもつことや自分で内容を選んで取り組むことは難しく、個々の状況による差が大きかった。	・発達段階に応じて自主学習への取り組み方を示し、興味や関心を引き出す働きかけを行う。 ・自分で学習内容を選べる場面を意図的に設け、主体的に取り組む姿勢を育てる。 ・日々の振り返りを通して、自分の成長や課題に気づく機会を増やす。